

栃木県中学校長会報

会長あいさつ



栃木県中学校長会長
宇都宮市立旭中学校
校長 清水 昭

今日、世界の情勢はめまぐるしく変動を続け、歴史的転換期にあります。日本も、21世紀に向けて創造的で活力ある社会をいかにしてつくっていくか、また、世界の一員として、国際社会にどのように貢献していくべきかという大きな課題に直面しております。

このような課題に对应していくためには、教育の果す役割が大であり、私ども中学校長の責務も極めて重大であります。次代の日本の発展を担う人間の教育をどう改善し、どう実践していくべきかを改めて問い直すことが肝要であろうと存じます。

ちょうど、このような時期に、教育課程の基準が改善され、新中学校学習指導要領の移行に入りました。この新しい教育が目ざしているものを着実に実践し、成果を挙げていくためには、私ども学校長が、どのような理念で、どのような学校づくりをなすべきかを明確にしておくことが大切であろうと存じ、所信の一端を申し述べさせていただきます。

学校づくりのまず第一は、

「学校は学ぶところである」ということを明確にして、教育力の高い中学校にすることです。そのためには、教師の資質・意欲・使命感を高めなければなりません。これがための教職員の研修はもちろん重要ですが、意欲や使命感などは、校長と教職員との好ましい人間関係から醸し出されるものが大であろうと存じます。校長自らが心豊かな人間となって、強い信念と愛情を基本に教職員をリードし、教職員が生き生きと、共に協力しながら各自の持てる力を存分に発揮して、生徒の個性・能力を十分に伸ばし、心を耕せ

る中学校にしたいものであります。

第二は、生徒の主体性が十分培われる中学校とすることです。新中学校学習指導要領は、社会の変化に自ら対応できる心豊かでたくましい日本人の育成を図ることを基本的なねらいとしておりますが、これを達成するためには、生徒が、自ら考え、判断決定し、実践して、その結果に責任を負うという主体性を培う教育を中学校教育の根幹に据えなければなりません。この主体性を育てる教育の根底は、一人ひとりの生徒を人間として大切にしながら、認めて、ほめて、励ますことの徹底であり、これは、本県の「いきいき栃木っ子三あい運動」の実践そのものであります。このような主体性を育てる教育を徹底することによって、はじめて、生徒が自信をもって意欲的に活動し、学ぶ喜びと明日への希望のもてる中学校が実現できるものと確信いたします。

学校づくりの第三は、

保護者との協力・信頼関係を一層深め、地域に愛される中学校にすることです。そのためには、ただ今申し上げました教育力を高め、生徒が主体的に生き生きと躍動する学校を生み出すことが先決ですが、保護者や地域との共通理解を一層深める工夫をすることも大切であります。

さらに、学校の環境整備にも十分留意し、清潔で美しく、言語環境の整った、学園としての安定した雰囲気のためよう学校づくりにも努力するとともに、地域に開かれた学校をつくることによって、地域に愛され、定着した学校にしなければならないと存じます。

以上申し上げましたことは、校長先生方には当然実践されつつあることであろうと存じますが、今後とも教育委員会をはじめ関係機関との連携を一層深めながら努力を傾注することが必要ではなかろうかと考えております。

私どもが共々に、校長の使命に徹し、協力一致の体制で本県中学校教育のますますの充実発展に努力を重ねることを誓いあいいたいと存じます。

(総会での会長あいさつより)

学校経営雑感



栃木県中学校長会副会長
宇都宮市立城山中学校
校長 喜多山 伸 治

一般に「よい学校」とは
どういう学校をいうのだろ
うか。このことについて特
に基準となるものはないが、

私の考えている「よい学校」像は次のようなもの
である。

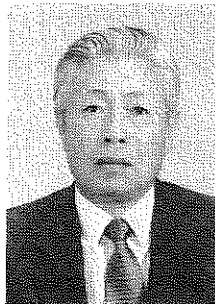
1. 教師と生徒及び生徒相互の好ましい人間関係
のもとで、生徒一人ひとりが目標を持って生き
生きと活動している学校
2. 教職員が互いに連携協力を密にして、それぞ
れの特性を発揮して指導、研究に励む学校
3. 施設・設備が整備され、目的にかなって効果
的に使われている学校
4. 保護者や地域との連携が密で、好ましい伝統
や校風が育っている学校

いま、学校の活性化や、特色ある学校作りが叫
ばれているが、それらのことは上記の条件を満た
した上で達成されることである。そのために校長
は常に学校の実態を正しく把握し、学校としての
課題を明確にし、改善を図っていかねばなら
ない。年度末に行なっている学校評価は学校経営
方針の基礎資料として、たいへん大切なものであ
る。教職員一人ひとりの意見が尊重され、全体の
モラルが高まり、「こういう学校にしよう」と
いう合言葉が教職員の間に自然に生れてくること
を期待したい。

新指導要領の実施に向かって、いま各学校では
教育課程の編成にいろいろと思案を巡らしている
所であろうが、学校の創意と、特に校長のリーダ
ーシップが問われるときである。編成に当たって
人的及び物的な困難も予想されないではないが、
画一性を排し、時代や社会の変化に対応し、地域
社会の要望に即した特色ある教育計画を作りたい。

しかしかにか理想的な計画を作っても、それを
実践するのは人である。限られた人材を人間関係
や人材育成に配慮しながら、適材適所の組織化を
図ることが学校経営の鍵である。

「温故知新」…… 仏作ったら魂を



栃木県中学校長会副会長
茂木町立茂木中学校
校長 根 本 勇

平成5年の新教育課程の
全面実施へ向けての準備が
現在進められ、教育の質的
転換が図られつつある。

この時期に、歴史の大きな転換期における教育
の動向に目を向けてみることも、今回の改訂の主
旨をよりよく理解するために意義のあることと思
われる。

まず、近代的な学校教育が始められた明治初期
の教育はどうだったか。「……身を修め、智を開
き、才藝を長ずるは学にあざれば能はず。是学
校の設あるゆえんにして……」（学事奨励に関す
る仰出され書）、「人に智能、徳能、体能あり、
薫陶、涵養、此の三能をして均しく上達を得せし
む、是を教育の本旨とす。」（学政片言）という
ような精神で学校が設立されていた。

第2次大戦後の戦後の復興の努力の中でも教育
改革に期待する所が大きかった。新制中学校発足
の年の昭和22年5月31日現在の本校学校要覧に
「社会生活の啓培(昭和23年度には社会性の啓培に)、
知性の練磨、体育の生活化と保健衛生の実践化、
藝能的情操の日常化、郷土開発の振興と新勤労観
の確立、教育環境の整備」、昭和23年5月1日現
在の本校の学校要覧の努力点には、「自律的・自
治的訓練による道義心の昂揚並びに責任ある真の
自由の実践化・生活化、自発的学習態度を根幹と
して科学教育を重視し学力の向上を図る、5日制
による週1日の自由研究の計画的運営」などがあ
げられている。

これらを今回の教育課程の基準の改善と考え合
わせた時、大変感慨深いものがあると同時にただ
単に改訂された新学習指導要領や答申を読みとむ
だけでなく、過去の教育の歴史や将来との関連で
深く咀嚼し教育の質的転換への努力をすることが
大変重要なことと思われる。

今こそ、「温故知新」、「仏作って魂入れず」
にならない努力が大切だと心に強く思う。

退任にあたって



前栃木県中学校長会長
（前宇都宮市立
一条中学校長）
阿 部 豊

時の流れは早いもので、
平成3年度も半ばになろ
うとしています。

会員の先生方には益々ご壮健で職務に精励のこ
とと推察いたします。

さて私こと中学校長会の一員として、公私とも
に大変お世話になりました。とりわけ会長在任中
は、副会長・理事等の役員の方々の先生方をはじめ、会
員の方々から適切なご支援・ご協力を賜わり、曲
りなりにもその重責を全うすることができました
ことに対し、心から感謝とお礼を申し上げます。

思えば平成2年度は、新教育課程の理念を受け
教育目標の検討や教育課程編成の体系の確立等の

ために、各地区校長会の活動の充実や本会の研修
活動の推進などの運営方針によって活動を展開し
てきました。先輩各位によって築かれた栃木の教
育の立派な伝統を更に充実発展させるために、会
員が団結と相互連携のもとに謙虚にして地道に研
鑽に励む姿勢は高く評価されていると信じます。

県中学校長会は、平成4年度関プロ研究大会の
成功を期して、今着々と準備を進めていることか
と思います。より万善を期するために何かと苦勞
が多いかと思いますが、21世紀にたくましく生き
る人間教育のあり方の研究に、そして大会の運営
に会員一丸となってご精進なされるようご期待い
たします。

一方学校経営も様々な要請や課題が山積し、日
日厳しいものがあると思います。新しい教育の方
向を見極め、職員組織の活力を駆使し、個性豊か
な特色ある学校の創造のためにご尽力ください。

終わりにになりましたが、県中学校長会のますま
すのご発展と校長先生方のご健勝とご活躍を心か
らお祈り申し上げます。

平成3年度各専門部 活動計画

調査部

部長 菊池 亮 蔵 (宇・瑞穂野中)

1. 役員選出と事業計画の作成

平成3年6月3日に旭中において部会を開催
し、次のとおり決定しました。

- (1) 役員 副部長 福井 淳 (河・上三川中)
- 〃 竹田公彦 (塩・玉生中)

(2) 事業計画

- ① 全日中調査部との共同調査である「中学
教育に関する調査」の実施
- ② 県中学校長会ならびに各専門部活動に必
要な調査と資料の提供
- ③ 他県中学校長会、教育団体との連携と資
料の交換

④ 調査結果や収集資料の配布

2. 「中学校教育に関する調査」について

この調査は、全日中校長会調査部との共同調
査で、去る6月に実施しました。調査に当たっ
ては、県教育委員会の義務教育課と高校教育課
にそれぞれ資料提供をお願いし、御協力をいた
だきました。特に清水副主幹や井口課長補佐に
はお世話になりました。また、項目によっては
県下中学校の悉皆調査の必要があったため、全
中学校長各位に、特に地区の集計事務について
は、各地区の調査部の校長各位にお骨折りを
おかけしました。厚く感謝申し上げます。

その調査の結果の一端を次の表で紹介し

比較項目	昭48.4.1 (初回)	平2.5.1	平3.5.1
給料	51,900円	148,100円	167,300円
初任給(大卒)	78,400円	236,000円	244,400円
勤続10年	111,800円	330,800円	349,200円
勤続20年	146,400円	436,500円	443,300円
勤続36年(校長)	24,100円	68,700円	78,400円
旅費1人当たり(年間)	58歳	60歳	60歳
校長退職年齢	78,836人	88,030人	85,589人
生徒数	3,588人	4,403人	4,619人
教職員(校長、教頭、教諭、養護教諭等)			

研修部

部長 横嶋 孝夫 (宇・陽南中)

1. 第1回研修部会

平成3年6月3日(月) 旭中学校

議題

(1) 平成3年度研修部組織

- ・研修部長 横嶋 孝夫 (宇・陽南中)
- ・同副部長 高瀬 敏通 (那・日新中)
- ・同副部長 鈴木 敏夫 (上・南摩中)

(2) 関プロ栃木大会について

- ア 研究協議題と研究の視点
- イ 研究協議題設定の趣旨の作成分担

(3) 平成3年度栃木県中学校長会研究主題確認

- ア 主題 心豊かでたくましい日本人を育てる中学校教育
- イ 副主題 新教育課程の研究と実践による中学校教育の充実

(4) 平成3年度研修部活動計画

- ア 第13回栃木県中学校長会研究大会
 - ・期日 平成3年11月28日(木)
 - ・会場 栃木県教育会館
 - ・内容 関プロ栃木大会、全体会、分科会提案内容の発表
- イ 研究集録第14集の発行

2. 第2回研修部会

平成3年7月11日(木) 教育会館小会議室

(1) 関プロ栃木大会について

- ・研究の視点Aの確認とBの作成
- ・研究協議題設定の趣旨の検討

(2) 関プロ神奈川大会報告

3. 第3回研修部会

平成3年9月18日(水) 教育会館小会議室

(1) 関プロ栃木大会について

- ・研究協議題設定の趣旨の検討

(2) 栃木県中学校長研究大会の企画と運営

4. 第4回研修部会

平成3年12月10日(火)

(1) 研究集録第14集の編集、発行配布は2月

編集部

部長 薄井 健郎 (宇・宝木中)

- 平成3年6月3日(月)、宇都宮市立旭中学校において、第1回編集部会を開き、本年度の役員を次のように決定しました。

- ・部長 薄井 健郎 (宇・宝木中)
- ・副部長 高久 邦夫 (河・河内中)
- ・〃 山中 芳夫 (栃・吹上中)

- 平成3年度は次の期日をめやすに、年2回の会報(第75号、第76号)の発行を中心に活動を進めることにしました。

- ・第2回編集部会(6月22日(土)、宝木中) 第75号の内容と執筆者の人選。9月10日(火)発行予定。

- ・第3回編集部会(11月30日(土)、宝木中) 第76号の内容と執筆者の選定。1月20日(月)発行予定。次年度の編集方針について。

- 平成3年度の会報の編集方針として、次のことを話し合い、確認しました。

- ・従来どおり22ページ(2回)を確保する。
- ・内容については、基本的に従来のものを継続するが、さらに充実を図るための意見や要望を会員から聴取するとともに、他都県の校長会報の内容等を検討し、参考にする。
- ・栃木県中学校長会の活動を中核としながら、広く県内の他の教育機関・団体の活動や関東地区中学校長会、全日中校長会の動きにも目を向け、必要に応じて紹介する。
- ・他の都道府県中学校長会の会報の収集や交換にも配慮する。

- 第75号の内容として次のものを盛り込むこと

にしました。

- ・役員所感 会長、副会長(宇都宮、芳賀)
- ・専門部活動計画 8部
- ・退任にあたって 前会長
- ・新任校長の一言 新任校長5名
- ・地区だより 6地区
- ・私の朝会訓話
- ・お知らせ

職員対策部

部長 金子 隆郎 (宇・星が丘中)

- 平成3年6月3日(月) 宇都宮市立旭中学校において専門部会を開き、本年度の組織及び事業計画を協議し、次のように決定しました。

(1) 役員

- 部長 金子 隆郎 (宇・星が丘中)
- 副部長 山村 好彦 (南那・七合中)
- 〃 春山 集 (足利・愛宕台中)

(2) 今年度の計画

- 講話 「退職後の生活設計」
- 期日 平成3年12月5日(木) (予定)
- 場所 県教育会館
- 講師 県教委福利課長 他

(3) 研修内容

—退職と退職後の課題—

- ① 医療制度
 - ・任意制度組合員制度
 - ・継続療養
 - ・短期給付 等
- ② 退職手当
 - ・退職手当の種類
 - ・退職手当の計算
 - ・各種課税 等
- ③ 年金
 - ・年金計算方法
 - ・年金の支給
 - ・厚生年金との調整 等

※ 講話 「退職後の生活設計」については、福利厚生部と共催の予定です。

進路対策部

部長 加藤 昌雄 (宇・宮の原中)

平成3年6月3日、宇都宮市立旭中学校において、部会組織及び年間事業計画について協議した結果、次のようになった。

1. 役員

- 部長 加藤 昌雄 (宇・宮の原中)
- 副部長 長島 荘介 (矢・片岡中)
- 〃 益子 純夫 (野・野木第二中)

2. 事業計画

(1) 第1回研修会(実施済み)

- ア 期日 平成3年7月11日(木)
- イ 場所 栃木県教育会館
- ウ 内容 県立高校入試に関する諸問題
 - (ア) 県立高校募集定員について
 - (イ) 学科再編と学区制のあり方について
 - (ウ) 入試事務のあり方について
 - (エ) その他

エ 出席者

- 高校教育課課長補佐 速水虎之助先生
- 整備計画担当副主幹 坂入 三男先生

(2) 第2回研修会(未実施)

- ア 期日 平成3年10月下旬
- イ 場所 栃木県教育会館
- ウ 内容 私立高校入試に関する諸問題
- エ 出席予定者
 - (ア) 県・文書学事課私立高校担当者
 - (イ) 私立高校代表校長先生

第1回研修会の概要

最初に、県教委高校教育課から平成3年度県立高校入学者選抜実施状況について説明をいただき、次いで、県立高校入試に関する諸問題について中学校の立場から質問し、意見の交換を行った。普通科志望の多い中での学科再編のあり方をはじめ、募集定員や入試事務等について多くの要望をお願いすることができ有意義な研修会であった。今後定められた規則を改めるために、予想される問題点が解決できるまで継続して協議することにした。

☒ 修学旅行部

部長 田村幸二(宇・横川中)
副部長 菅沼基訓(小・間々田中)
伊澤喜二(宇・陽西中)

修学旅行は、すべての生徒が最大の期待と関心をもって迎える学校行事であり、この経験は生涯にわたってはぐくまれ、人間形成に大きな影響を及ぼすと言われています。学習指導要領で、修学旅行は特別活動の旅行・集団宿泊的行事として、自主的・実践的態度の育成とともに、人間としての生き方の自覚や、自己を生かすことに力点がおかれ、総合的学習としてますます重要な教育活動となりました。

本部会は、修学旅行本来の使命達成を目的とし特に関西・東北方面への安全かつ円滑な輸送と学習効果の向上に寄与するための部会であり、調査研究、資料の収集、関係機関との交渉、総合的輸送計画の作成を行っています。また、本部会は、関東地区公立中学校修学旅行委員会(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉の校長会)さらに関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会に加盟し、相互の密接な連絡により上記活動を進めております。

ちなみに、関修委による平成3年度の計画輸送は、学校数815校、生徒数184,728名で、本県は134校、25,514名でした。

関修委、全修協共催による本年度の修学旅行研究大会は、平成3年11月28日(木)『集団の中で自己を生かし、協力し合う修学旅行を求めて』のテーマで千葉県佐倉市志津コミュニティセンターで開催され、研究発表(柏市、市原市の2中学校)と文部省渡部邦雄教科調査官の講演が予定されています。

- 6月 — 平3事業計画案、予算案審議等
7月 — 平5年度新幹線利用希望調査
8月 — 同集計、平3修学旅行実施報告集計
9月 — 栃木・茨城調整会議、安全対策実態調査
12月 — 平5修学旅行輸送計画確認、その他

☒ 福利厚生部

部長 荒井俊一(宇・清原中)
平成3年6月3日の部会において、本年度の正副部長並びに事業計画を次のとおり決定しました。

- 1. 正副部長
部長 荒井俊一(宇・清原中)
副部長 森嶋愛生(上・本郷中)
吉田忠(小・大谷中)
2. 事業計画
(1) 第1回部会研究会 3. 6. 3(月) 教育会館
ア 役員選出
イ 事業計画作成とその推進について
(2) 第2回部会研究会 3. 8. 31(土)
ア 「生徒手帳」編集会議
(3) 第3回部会研究会 3. 11. 9(土)
ア 「中学生の安全」編集会議
(4) 会員研修会(講話) 3. 12. 5(木)
ア 講話 「退職後の生活設計」
講師 県教委 福利課職員3名予定
* 職員対策部と共催事業
(5) 第4回部会研究会 4. 1. 21(火)
ア 「新しい道」の検討
イ 本年度事業の反省と次年度事業計画について

上記の内容が、福利厚生部会の本年度の実施計画ですが、12月に予定しております会員研修会は、来春定年退職の方々を対象といたしますので、年金、退職金、退職後の医療保険に関心のある方はご参加下さい。

なお、この会の参加は予約制で、11月初旬ごろ案内の通知を出しますので、内容をご覧のうえ、希望者は参加申し込みをして下さい。



第43回関東申信越地区中学校長研究協議会 神奈川大会に参加して

事務局次長 鈴木基司(宇・豊郷中)
第43回を迎えた本大会は「心豊かでたくましい日本人を育成する中学校教育」——生涯にわたって主体的に学び続ける意志と実践力を育てる中学校教育——をテーマに6月19日の理事会、総会20日・21日の研究協議会が10都県1300余名の会員を集め、国際都市横浜市において開催された。

本県からは清水会長以下70名が参加し、全体会、分科会で熱心に研究協議がなされた。

第1日の開会式は平元淳一大会委員長のあいさつに引続き、各界来賓から本大会への期待を込めた激励の祝辞があり式を終えた。予定された時刻に講師の到着が遅れたため、日程を一部変更するハプニングがあったが、福島初中局中学校課長から「中学校教育の諸問題」と題し、一校一特色、勇気をもって語り継がれる学校経営をとの要請と共に、国際化、情報化時代の教育、生徒指導上の諸問題について講話があり、改めて責務の重大さを痛感させられた。

全体協議には足利第三中茂呂保雄校長が議長として登壇。地元松本中大久保洋子校長から横浜市中学校の教育課程改訂の歩みとその考え方、今後の中学校教育の在り方等について提案された。これを受けた神奈川の校長からの感想、意見発表は違和感があったとの参会者からの声が聞かれた。

アトラクションは横浜FKコール。素朴な歌声でなつかしい日本抒情歌が披露され、午後は9分科会に分れ各協議題のもと各都県の提案を得て熱心な協議がなされ、多くの示唆が与えられた。

第2日は分科会協議を集約した発表、大会宣言の決議に続き神奈川県知事長洲一二氏の「十人十色ひとり十色」の講演を拝聴。神奈川独自の教育推進、特に共生・共育の願いに基づく「ふれあい教育」について熱っぽく話された。結びの谷川俊太郎の詩「生きる」の朗読は圧巻。「先生方どうぞ子どもたちをよろしくお願いします」の終りのことばと共に感銘深い大会の幕が閉じられた。

☒ 生徒指導部

部長 丸山悦郎(真・大内中)
平成3年6月3日の専門部会において、本年度の正副部長並びに事業計画を次の通り決定した。

- 1. 正副部長
部長 丸山悦郎(真・大内中)
副部長 菊地正(佐・西中)
千本文雄(上・明治中)
2. 事業計画
(1) 第1回部会研究会 平3. 6. 3 旭中
ア 役員選出
イ 研究内容の設定とその推進について
○研究課題 「校則見直しの現状と課題」
○経過
本生徒指導部会においては、昭和63年10月に、「生徒心得について」の実態調査を県内全中学校を対象に実施した。その内容は12項目、設問数は143にも及ぶ膨大なもので、当時の生徒心得に関する実態の全ぼうが明らかにされている。その後約4年の歳月が流れ、県内のほぼすべての中学校において校則等の見直しが行われたと考えられるが、現実には運用面も含めて問題は多い。そこで、前回の調査以来、校則の見直しはどのような変遷を経て、実態はどうなのか。現時点での問題点、更には将来への展望も含めて下記の内容項目による実態調査を実施する計画である。
① 校則見直しの有無
② 内容項目数の推移
③ 各校における項目数
④ 見直しをした視点
⑤ 生徒に任せた内容項目
⑥ 諸事情から変えにくい内容
⑦ 見直しの手続きの実態
⑧ 見直しの作業を通して感じたこと
⑨ 見直し後の成果等
⑩ 校則について今後の展望

実施計画
・8月 アンケート作成
・9月 各中学校に配布及び地区集計
・10月 集計・分析

新任校長の一言

家庭や地域社会との連携

宇都宮市立雀宮中学校長 津村 哲 雄

緊張と多忙のうちに5か月が過ぎた。幸い11年間在職した学校なので、すべての面でやりやすい。

雀宮地区は、人口 36,800 人という大きな町で、宇都宮から独立した感のある特別な地域である。したがって、家庭や地域社会との連携が教育活動を推進する上で非常に大切である。地域がら、PTA活動や地域社会の行事は非常に活発であるが、学校側は若い教員がほとんどで、それらの行事への参加は消極的になりがちである。私は、常にその必要性を強調し、自らも積極的に地区の行事等に参加し、地域住民との接触の機会を持ち、相互の人間関係を深めるよう努力している。家庭あつての地域、地域あつての学校であり、教職員の資質向上を図り、家庭や地域の期待に応える学校経営を進めていく所存である。

あと1年半しかない校長職であるが、体力に物を言わせ精一杯頑張るつもりである。先輩諸氏の御指導、御鞭撻をよろしくお願いするしだいである。

進路指導に思う

真岡市立山前中学校長 高波 浩 治

進路指導は中学校教育において大切なことであり、学校教育法第36条第2号にも「社会に必要な職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養う」と示されています。このことをもとに進路指導を実践するには、中学校の3年間を見直し、発達段階を考慮した目標のもとに、実態に即した計画により組織的で継続的に進める必要があります。個に応じた指導がなされなければならないと思います。また、進路選択の能力を養うため、自己理解を深めたり、上級学校や職業に関する情報を収集することや、これらに対してよく理解することが必要であり、更にこれらのもを

主体的に進路の計画を立て、相談を通してより望ましく進路が選択できるようにしなければならないと思います。ところで、このような進路指導を進めれば、生きることへの希望、自信、誇り、勇気を持ち、たくましく生きようとする生徒を育成することができ、より充実した学校教育を推進することができると考えています。

新任校長として三つのことを

藤岡町立藤岡第二中学校長 片柳 實

学校は長い歴史と伝統によって支えられている。教育は教育課題解決の連続作用である。多くの先輩達が苦勞して解決した業績を大切にしながら、私は初心に戻って新しい感覚と信念のもと、学校経営に努力したいと思っている。

◇あいさつを大切に—ある先輩が「校長はあいさつ業」であると言われた。来る日も来る日もあいさつの連続である。一校を代表し、組織のリーダーとしては、常に人格と識見が問われる。子供には子供向けの心に響く話しをしたいと思う。

◇教職員と共に—生徒とは自ら仲間に入り、心を通わせることができる。保護者は自分の子供の成長する姿をみて教師を信頼する。案外、教職員の集団が難しい。私は「生徒を中心に」話題を、うちの校長はよく生徒を見ている。その積み重ねを。◇保護者の理解と協力で—私はPTA会議等でわかりやすく、情熱をこめて経営方針を伝えることにしている。身がまえ、肩の力を抜いて何よりも心の垣根を取り払う心を大切にしたい。

緑と共に育つ

佐野市立赤見中学校長 小松原 庄 平

本校は、開校以来「私達の地域の学校は私達の手で、そして緑の美しい学校に」を合い言葉に、歴代校長、教職員、生徒、PTA、そして地域の方々が、力を合わせ、額に汗して築き上げた、四万㎡の校地と30aの梅園、そしてそこに美しく植栽された百種類約四千本の樹木を有する、緑化日本一の学校です。この緑豊かな恵まれた環境に学

地区だより

研修活動の概要

河内地区

本地区校長会の研修活動は、郡の北部と南部によるブロック別研修と両者合同による研修があり、今年度の研究内容を次のように決め活動している。

1. ブロック別研修では、前年度の継続・発展的研究として、北部では、生涯学習の体系の中で学校・家庭・地域など教育の各分野の役割や責任を明確にし相互の連携を図ることの必要性を認識し「学校・家庭・地域の連携」を課題とした。南部では、「学校での教育研究を充実させるための校長の指導性とその運営」を課題として研究を重ねている。

2. 合同研修は、「新しい教育課程の編成と諸問題」を課題とし、各校ごとに、次代を拓く日本人の育成のために中学校教育のあるべき姿を求め、平成5年度からの完全実施に向けての研究である。特に今年度は、○個性の伸長に関して選択教科の幅の拡大 ○授業時数の弾力的運用 ○クラブ活動の位置付けについて、率直でより具体的な発表と意見の交換を予定している。なお、ブロック別研修の成果も合同研修会で発表され、合同研修の内容と共に、各校の教育計画及び活動に資するものと考えている。

研究活動の概要

芳賀地区

芳賀郡市中学校長会は、根本勇（茂木中）会長を中心にして会員18名によって組織しています。今年度の活動は、総会を含めて8回の研修会を計画しています。そのうちの2回は、小学校長会と合同で行います。

中学校長会が行う6回の研修内容は、昨年度に引き続き平成4年度に開催されます関東甲信越中学校長栃木大会の研究協議題の第5分科会（芳賀地区が担当）「部活動の実態と部活動によるクラブ活動代替の課題」と「経営上の諸問題」です。

ぶ本校生徒は、「育てよう、みんなの心と緑の学舎」をスローガンとし、ふるさと岩石園、梅の里サーキットロード等の数多い緑化施設を積極的に活用し、体験を通して生き生きと「磨き合い」の学校生活を送っています。本年度は、「地域に貢献する緑化」を目指し、生徒会が、国道沿いや学区内の老人ホームの花壇づくりを進めています。

このような活動を通して、生徒は学習への興味関心を高めるとともに、木々の生長を願って、まさに緑と共に確実に育っております。今後とも心と力を一にして緑化活動を充実させる中で、「自らの生き方を考え主体的に学習する生徒」の育成に努めてまいりたいと考えております。

「教育環境」に思うこと

足利市立西中学校長 市川 光 男

「環境は人を作る」の教えを得て環境整備には自ら進んで対応を心がけて来たが、新任校長として着任した本校は、建築当時に羨ましがられた鉄筋校舎も長い年月には勝てずか、その老朽化度に驚かされた。幸い、市の教育施設整備計画に基き校舎改築の運びとなり、自らの信条に合った好機を得た思いで感謝の念を深くしている。しかし、時代は予想を遥かに越えたスピードで発展を続け、それに対応しての教育が要請される現状の中で、後の年月の大勢の人々の学びの場を建築することを思うとき、どのような施工を当局にお願いすべきか、重い責任を感じている。

「教育は人にあり」とは時代を超えた教育の真理であり、「人的環境」の職員41名の存在と動向は何にも増して重要である。その意味から時代の推移を適確に見極め、生徒と共に育つ人間性溢れる教師集団作りを目指したい。そして、先人のこれまで築き上げられた校風の継承発展、人権を重んじ一人ひとりに着目した教育の実践のより一層の充実を図りたい。



栃木大会の研修課題については、毎回研修してありますが経営上の諸問題については毎回テーマを変えて研修しています。

諸問題についての研修内容は次のとおりです。

- ①進路指導上の諸問題（高校入試に関する内容）
- ②教職員指導のあり方（中堅教員の育成の内容）
- ③生徒指導上の諸問題（校則、登校拒否の内容）
- ④教育課程の編成の諸問題（選択教科の拡大など）

なお、県の研修課題については研修員から県関係の報告と提案があり、研究討議が行われています。

今年度はこんな事を

塩谷地区

地区内の中学校が10校、したがって構成メンバーが10名と極めて小規模の校長会であるだけに、増淵氏家中学校長を会長としてすばらしいまとまりをみせている。

今年度の会の運営方針「中学校教育に関する調査研究・対策活動並びに組織的な研修活動を実施し、本地区中学校教育の一層の充実を図る」のもとに次のような研修活動並びに対策活動を行なっている。

まず、研修活動では○新教育課程への移行・編成に関する内容。○「やる気」を起こす教科等指導の充実。○一人一人に充実感を持たせる生徒指導の在り方。○可能性の開発を目指す教育活動の在り方。のテーマを設定しそれぞれ担当を決め、その担当者が提案し、全員で協議し内容を深めるといった進め方をしている。

対策活動では、「中学校教育の諸問題」ということで、教育委員会に対する要望を地区内の教職員からアンケート形式により聴取し、5市町の教育長と懇談会を持ち改善を図っている。

今年度は以上のような事を実施しています。



平成3年度研修計画の概要

南那須地区

関東甲信越地区中学校長研究協議会栃木大会を控え、第9分科会「教職員の研修活動」を担当するため、佐藤継也会長（下江川中）のもと箕輪正明（鳥山中）研修部長を軸に、精力的な研修活動を展開している。主な研修活動として――

- 分科会研修テーマ設定の趣旨の原案検討と提出原稿作成
- 研修活動の計画策定
- 南那須地区中学校の校内研修内容の調査
- 各校における校内研修実施上の問題点についての話し合い
- 校内研修についてのアンケート作成・協力依頼
- 校内研修についてのアンケートの集計及び考察
- 教職員の資質の向上を目指す研修の推進は、いかにあるべきかを調査の結果よりまとめ、発表原稿の作成
- 研修内容の発表
- 次年度の研修計画作成

研修活動の概要

安佐地区

当地区では、「心豊かでたくましい日本人を育てる中学校教育」――自らの生き方を考え、主体的に進路選択する能力の育成――を研究課題に掲げて研修を進めてきた。今回の学習指導要領改訂の中でも、自己教育力の育成及び個性を生かす教育については重要な柱とされており、配慮事項としての

- 自ら生きる目標を求め、その実現に努める態度を育てること。
 - 個性の伸長や、個性を生かすこと。
- を受けて「生徒が自らの生き方を考え、主体的に進路の選択ができるよう、学校の教育活動全体

を通して、計画的、組織的な進路指導を行うこと。」とした。

本地区が、全日中旭川大会の分科会を担当し、また、来年度の関プロ栃木大会で担当する研究テーマも併せ考えて、

「個性の伸長を図る進路指導、生きる力を育てる進路指導」をテーマに掲げ、赤見中学校小松原庄平校長を中心として、各校の実践を持ち寄り、研修を進めているところである。

開かれた学校経営をめざして

足利地区

当地区は、茂呂保雄会長（足利第三中）を中心に、平成4年度関プロ中学校長研究協議会栃木大会にそなえ、学校が地域の教育・文化の拠点とし

て、また、生涯学習社会の担い手として、その機能を十分発揮するには、学校と家庭・地域社会との連携が不可欠であるという視点から『家庭・地域社会との連携協力による学校教育』とテーマを決め、次のような計画に従って研修を進めている。

○研修計画

- 4月16日 研修主題、研修計画の検討
 - 7月9日 各学校の実践例の調査と内容検討
 - 8月9日 研修内容の概要まとめおよび講話
 - 11月5～7日 先進校実情調査(倉敷市連島南中他)
 - 11月28日 栃木県中学校長研究大会参加
 - 12月9日 県大会発表後の研修内容再検討
 - 1月31日 関プロ原稿内容の検討と年度反省
- その他の研修
- 7月11日 小中合同研修会（学校経営一般）
 - 11月19日 “（一般教養）
 - 12月2日 “（同和教育）

私の朝会訓話

みなさんならどうする

栃木市立栃木西中学校長 江面幸雄

「団結は力なり」の言葉どおり、教職員と生徒の心が一つになったとき、学校の組織は最高に生かされ大きな力となり、学校の誇り、生徒個々の誇りを生み出すことになると思う。それには様々な方法・手段があるが、校長の講話は、その人生観や教育観を通して、経営方針、目標を浸透させる重要なものであると思っている。

私は月例の朝会訓話において、本校教育目標に即した「広い心・粘り強い心・美しい心をもって喜びと感動のある生活」を目指す生徒指針の「栄光への道」を基盤にした内容を、ニュース・人物・自然や動植物・文学作品等から選んで行なっている。

ここでは、栃木市が生んだ文豪山本有三の「米百俵」をとりあげた例を紹介する。

「米百俵」のあらまし――

明治維新の際、越後・長岡藩は幕府方について宮軍に刃向かったため、長岡城下は兵火を浴びて灰燼に帰し民衆の生活は窮乏した。見かねた親類

の三根山藩から米百俵が届けられた。ところが、藩の大参事小林虎三郎は、この百俵の米をもとにして学校をつくり人材を育成することが急務であると提案したが、猛反対にあった。しかし、長岡藩再興の道は教育にあるとの主張を貫き、人々を説得した。こうして明治3年、雪国長岡に「和漢学校」を開設、その後、多くの人材の輩出をみることになるのである。――

皆さんが小林虎三郎の立場であったら、どのように考え、行動しますか。

私たちの長い人生には、決断しなければならぬ時が何度かおとずれます。「熟慮断行」という言葉がありますが、十分に考えた上で思いきって実行に移す時には大きな勇気がいるのです。私はこの作品を読むたびに、藩の危急存亡の時に自信をもって決断した小林虎三郎の英知と勇気、そして先見の明に感動を覚えるのです。

みなさんの勇気ある決断と実行を期待します。

《お知らせ》

第17回関東甲信越中学校進路指導
研究協議会栃木大会のご案内

関東甲信越中学校進路指導研究協議会長
伊澤喜二(宇・陽西中)

新学習指導要領が公示され、この中で「生徒が自らの生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行うこと」とされ、これからの学校教育においては、社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視するとともに、生徒が自らの生き方を考え将来に対する目的意識をもって、主体的に進路を決定し、生涯にわたる自己実現を図っていくことができるような能力や態度を育成することが重要であると述べています。

栃木県中学校教育研究会進路指導部では、改めてこの趣旨を踏まえ、平成3年度第17回関東甲信越中学校進路指導研究協議会栃木大会に向けて鋭意準備を進めてきたところです。

今までの研究の成果の上に、新指導要領の趣旨を積み重ねることができればと全県下進路指導研究部員あげて研究を進めてまいりました。

大会の概略は以下のとおりです。

《大会主題》

「個性を伸ばし、自らの生き方を切り開かせる進路指導」

大会期日	平成3年11月1日(金) 8時30分～(受付)
大会会場	栃木県矢板市立矢板中学校
大会内容	開会式、全体発表、研究授業 (全学級、学級活動の授業を公開) 分科会、記念講演、閉会式
記念講演	文部省初等中等教育局 教科調査官 鹿嶋 研之助先生
参加費	3,500円(1校で複数の参加者でも 1名分で結構です)

参加者各位の熱心な協議を期待し、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

第31回関東甲信越地区中学校技術・家庭科
研究大会「栃木大会」のご案内

栃木大会運営副委員長
御子貝 三郎(宇・鬼怒中)

標記の研究大会が、来る10月22日(休)・23日(金)、宇都宮市を中心に、県下10地区を会場として、関東甲信越の各都県の技術・家庭科担当教員によって開催される運びとなりました。

平成5年度から実施される新教育課程の方針にもりこまれた「個性教育の推進」「自己教育の育成」や前回の関プロ栃木大会テーマ「問題解決的学習」を生かした「一人ひとりに学ぶ楽しさを体得させ、工夫し創造する能力を育てる学習指導」という研究主題を掲げ、第1日目は栃木県教育会館で全体会(提案・記念講演など)研究をいたします。

第2日目は公開授業、分科会提案を領域別に各地区で行います。宇都宮「木材加工、食物」河内「家庭生活」下都賀「情報基礎」上都賀「金属加工」芳賀「保育」塩谷「電気」那須「住居」南那須「被服」安佐「機械」足利「教育課程、栽培」ということで教科領域ごとに分散して行うことになりました。この大会は、平成5年度から新学習指導要領の完全実施に向けて、本格的な移行への実施を踏まえ、改めて、本教科の目標を的確にとらえるよう研究を積み重ねてきました。

社会の変化に主体的に対応できる人間の育成を目指して、生活に必要な基本的な知識と技術の習得を第一の目標とし、実践的・体験的な学習の一層の充実を図り、基礎的基本的な内容の徹底、主体的に実践活動し、問題を自ら見付け、解決していく学習など、また、生徒の興味・関心や表現力を伸ばす学習方法の工夫、仕事の楽しさや完成の喜びを体得させるなど常に本教科の本質を見つめながら、全県下の中学校、研究組織をあげて研究実践に取り組んでまいりました。

多数の担当教員のご参加方のご配慮をお願い申し上げます。